

# 不動テトラの安全衛生重点施策



2020年4月

株式会社不動テトラ  
安全品質環境本部

## 目 次

1. 新しい事業年度のスタートにあたって	・・・	1
2. 2020年度 安全衛生管理計画	・・・	2
3. 2020年度 危険有害要因の特定等の結果表	・・・	3
4. 『指差呼称 これを防ぐぞ ヒューマンエラー 「手もとヨシ!」「足もとヨシ!」「吊り荷ヨシ!」』運動	・・・	7
5. 作業手順・作業計画	・・・	8
6. 3ない管理(黙認しない・妥協しない・放置しない) に徹した現場巡視	・・・	9
7. 日々の安全活動による危険感受性の向上	・・・	10

2020年4月1日

## 新しい事業年度(2020年度：75期)のスタートにあたって

新年度を迎えるにあたって、一言ご挨拶を申し上げます。

2019年の建設業における労働災害発生状況は、最新の速報値で、死亡者数は前年同時期より15%減少し過去最少となる状況で、死傷者数も僅かに減少しています。建設業全体ではそのような状況のなか、当社においてはこの数年横ばい状態でしたが、昨年度は直近5ヶ年で最も多くの労働災害が発生しています。また、通勤途上や業務上の移動中の交通事故が更に増加しています。すべての関係者一人ひとりが、**自らの安全衛生意識、行動を見つめ直し、それぞれの役割に応じた実効性のある安全衛生活動に真剣に取り組んでいかなければなりません。**

昨年度の災害発生状況等をふまえ、今年度の安全衛生管理活動の基本となる『**2020年度安全衛生管理計画**』を策定しましたので伝達します。

そのなかから、3つの重要なポイントをここに紹介します。**ヒューマンエラー防止対策、危険感受性の向上策、そして管理監督者の心がまえ**、の3点です。まずはじめに、ヒューマンエラー防止対策として、最重点実施事項『**指差呼称 これを防ぐぞ ヒューマンエラー「手もとヨシ！」「足もとヨシ！」「吊り荷ヨシ！」**』運動を展開します。昨年度当社で発生した災害の8割は、**「手もと」・「足もと」・「吊り荷」の安全確認不足に起因するもの**です。指差呼称を実行することにより、作業員自らの注意喚起を促し、ヒューマンエラーを防止してください。つぎに、危険感受性の向上策として、**「KY活動」・「ヒヤリ ハット あぶない運動」・「教育・訓練」**等、**日常の安全活動を通して、危険感受性の向上**を図ってください。作業員が実際の作業行動のなかで危険を感じ、その回避行動がとれるかとれないかで災害に結びつくつかつかないかの分かれ目になる場面は多いはずで、そして3つ目の、管理監督者の心がまえとして、**「3ない管理」**の浸透です。**「3ない管理」とは、「黙認しない」・「妥協しない」・「放置しない」に徹した現場巡視です。不  
安全行動を「黙認しない」、言い訳に「妥協しない」、不安全状態を「放置しない」、管理監督者がこのような心がまえで現場巡視を行い、災害ゼロの工事現場を築き上げてください。**

本計画の主旨・内容をご理解いただき、関係者一人ひとりが、それぞれの役割に応じた活動を地道に繰り返し実行し続けることにより、安全衛生水準を向上させ、**「無事故・無災害の職場づくり」**、**「快適で明るく働きがいのある職場環境づくり」**を実現させましょう。

安全衛生管理計画ポスターを、各作業所、本支店、営業所および事務所に配付します。掲示するとともに、計画された内容を協力会社を含め関係者全員に周知徹底するようお願いいたします。

株式会社 不動テトラ  
執行役員 安全品質環境本部長  
平野 博明

# 2020年度 安全衛生管理計画

## 安全衛生方針

当社は、人命尊重の理念のもとに「安全最優先」で事業活動を行い、協力会社と連携して、労働災害および公衆災害の絶滅、工事事故の防止、働く人たちの健康増進ならびに職場環境の改善に努め、社会からの信頼を得るとともに会社の持続的発展を目指します。

## 安全衛生行動指針

1. 全従業員の一人ひとりが意識を高め、安全衛生活動を自ら推進し、無事故・無災害の職場づくりを進めます。
2. 職場でのリスクアセスメントを実行し、労働安全衛生マネジメントシステムの適切な運用により、安全衛生管理の継続的改善に努めます。
3. 心とからだの健康づくりに取り組み、快適で明るく働きがいのある職場環境をつくりまします。
4. 労働安全衛生関係法令を確実に遵守します。

## 重点施策

重点施策	店社の重点実施事項	作業所の重点実施事項
リスクアセスメントの確実な実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 危険有害要因の特定時に活用する情報源の作業所への確実な展開</li> <li>● リスクアセスメントの実施に係る指導と支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 該当工事の特性を考慮したリスクアセスメントの実施および関係者への周知・徹底</li> <li>● リスクアセスメント結果の作業所安全衛生管理目標・計画および作業手順書への反映</li> </ul>
安全衛生活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業所安全衛生教育の積極的な支援と実施</li> <li>● 「指差呼称 これを防ぐぞ ヒューマンエラー 「手もとヨシ!」「足もとヨシ!」「吊り荷ヨシ!」運動の推進</li> <li>● 実作業を考慮した作業手順・作業計画の策定への指導・支援とその確認</li> <li>● 安全衛生委員会の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業内容を考慮した効果的な安全衛生教育の確実な実施</li> <li>● 「指差呼称 これを防ぐぞ ヒューマンエラー 「手もとヨシ!」「足もとヨシ!」「吊り荷ヨシ!」運動の実施</li> <li>● 実作業に即した作業手順・作業計画の策定・周知と作業開始後の見直し</li> <li>● 統括管理体制の確立と災害防止協議会の活性化</li> </ul>
三大災害の絶滅 (はさまれ・巻き込まれ災害、飛来・落下災害、墜落・転落災害)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 三現主義に則り、関係部署が連携して効果的なパトロールの実施</li> <li>● 発生した災害(事故)の徹底した原因究明と、具体的な再発防止策の展開</li> <li>● 安全衛生パトロール是正指示事項・良好事項、監督署臨検指導事項の水平展開</li> <li>● 危険感受性の向上施策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3ない管理(黙認しない・妥協しない・放置しない)に徹した現場巡視</li> <li>● 「災害事例」・「ヒヤリ・ハット あぶないカード」を活用した手順および機械・設備の見直し</li> <li>● 「声かけ」・「見える化」の安全活動推進</li> <li>● 日々の安全活動(KY、教育・訓練等)による危険感受性の向上</li> </ul>
公衆災害・公衆事故・交通事故の防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公衆災害・公衆事故・交通事故事例の水平展開</li> <li>● 交通安全教育、長時間連続運転の禁止、疲労軽減への配慮、健康状態の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 架空線位置の確認と防護、地下埋設物位置の確認と試掘の確実な実施</li> <li>● 通勤を含めた、交通安全教育、運行ルートの明示およびヒヤリマップ作成と周知</li> </ul>
「心とからだの健康づくり」 および職場環境改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 定期健康診断・特定業務(深夜業)健診の受診確認と有所見者への再診・再検指導</li> <li>● 高ストレス者の減少に向けた職場環境の改善</li> <li>● 働き方改革に係る社内施策の展開</li> <li>● 6S(整理・整頓・清掃・清潔・躰・習慣)徹底の推進および指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 定期健康診断・特定業務(深夜業)健診の確実な受診および有所見者の再診・再検</li> <li>● 高ストレス者の減少に向けた職場環境の改善</li> <li>● 働き方改革に係る社内施策に基づいた作業所運営</li> <li>● 6S(整理・整頓・清掃・清潔・躰・習慣)の確実な実施と現場事務所分煙化の推進</li> </ul>

## 安全目標

1. 死亡災害：0件
2. 公衆災害：0件
3. 災害発生件数
  - 休業4日以上 1件以内 (統計内)
  - 休業1～3日 2件以内 (同上)
  - 休業0日 5件以内 (同上)

## 衛生目標

1. 定期健康診断および特定業務従事者(深夜業)健康診断の受診率100%
2. 有所見者へのフォローの実施による二次検査受診率85%以上
3. 快適な職場環境の形成・促進

年月	2020年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021年 1月	2月	3月
月別 重点項目	建設機械・クレーン等 災害の防止	墜落・転落災害 の防止	崩壊・倒壊災害 の防止	切れ・こすれ 災害の防止	感電等電気 災害の防止	飛来・落下災害 の防止	墜落・転落災害 の防止	架空線・地下埋設 物事故の防止	建設機械・クレーン等 災害の防止	交通事故・災害 の防止	はさまれ・巻き込まれ 災害の防止	激突され災害 の防止
	交通事故・災害 の防止	定期健康診断 受診の徹底	熱中症の予防	はさまれ・巻き込まれ 災害の防止	ストレスチェック の実施	潜水災害の防止	健康管理と 職場環境の整備	激突され災害 の防止	休止期間中の 保安対策の確立	転倒災害 の防止	船舶・作業船 災害の防止	公衆災害の防止
主要行事 予定	安全衛生管理計画 の周知期間	全社 安全大会	安全衛生 推進大会	全国安全週間 特別パトロール			全国労働衛生週間 特別パトロール		年末年始労働災害防止強調期間 特別パトロール	安全祈願		年度末労働災害 防止強調週間



2020年度 危険有害要因の特定等の結果表



この表は、当社の過去の災害および事故事例をもとに要因を特定し、類似災害の防止を図るための結果表である。  
下線部分は、2019年度に発生した災害である。

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
シールド工事	シールド設備設置・撤去	坑外設備解体撤去	激突され	●クレーンが倒れ、作業員が下敷きになる。	●作業半径に応じた定格荷重範囲内の荷を吊る。 ●地盤が軟弱であり転倒するおそれのある場所では、転倒を防止するために敷鉄板等を敷設する。
		軌道設備の設置	はさまれ・巻き込まれ	●レールを枕木上で横移動中、レールと枕木に手指を挟まれる。	●レールの横移動はローラーベルコンを使用する作業手順にする。 ●レールや枕木を扱う人数を2人以上とし単独作業は行わない。
	シールド掘進	配管設置・撤去	飛来・落下	●重だめ配管のバルブ交換作業中、ケイ酸ソーダが飛散し左眼に入る。	●薬液が入っている配管を扱う際は、ゴーグルとマスクを着用する。 ●非常時発生時は、作業手順の確認とKYを実施する。
		セグメント組立	はさまれ・巻き込まれ	●セグメント吊り金具とエレクターの間に手・指を挟まれる。	●吊り金具の向き修正及びピン挿入時はエレクター操作を同時に行わない。 ●吊り金具の向き修正のための専用のカキ棒を使用する。
トンネル工事	発破・掘削	穿孔	飛来・落下	●削孔作業中、地山を確認するため切羽に近づき、吹付けコンクリートが落下する。	●異常時には、作業を止めて職員へ連絡し指示を仰ぐ。 ●異常が発生したら、切羽には立ち入らない。
		切羽掘削	油流出	●作業油ホースが破裂し、川へ流出する。	●油圧式機械の故障、ホース破裂等の恐れがある箇所は点検を徹底する。 ●緊急対策キットやオイルフェンス、油受け容器を切羽や放流口付近に整備する。
	吹付けコンクリート	ホース交換	飛来・落下	●吹付け機のスライドカバー上に付着していた吹付けコンクリートの塊が落下する。	●吹付け機のフーム等に付着したコンクリートは確実に除去する。 ●吹付け機のフーム直下で作業する時は、上部に落下物がないか確認する。
	インパート	掘削	激突され	●補助作業中の作業員が掘削中のバックホウに激突される。	●重機OPは、作業員が作業半径内にいる時は重機作業を行わず、作業箇所の人払いをする。 ●作業員は、重機の作業半径内で作業を行わない。
型枠セット		はさまれ・巻き込まれ	●インパート中央通路型枠セット時、チェーンブロックを下げた際に型枠と桟橋梁に手をはさまれる。	●型枠が重なり合わないよう、横移動してつり上げられるように構造変更する。 ●構造、手順を見直し作業手順書を作成・周知する。	
河川工事	仮締切	鋼矢板打設	転倒	●オーガケーシング引抜き時の泥落としバンドを装着時、体勢を崩して転倒する。	●サイレントパイラー本体に吊り足場を設け、作業足場を確保する。 ●作業手順書にオーガケーシング引抜き時の泥落としを盛り込んだ作業手順を再作成し、関係作業員を含め周知会を実施する。
	躯体構築	型枠・型枠支保工組立	はさまれ・巻き込まれ	●資材を吊り上げ時、クレーンワイヤーに手を触れて、シーブブロック部に巻き込まれる。	●吊荷が何かに当たりそうになった場合は、クレーンを旋回させ吊荷が当たらないようにして吊荷を上げる。 ●長尺物のクレーン作業時は、吊荷に介錯ロープをつけ荷ぶれを防ぎ、吊荷が当たらないようにする。 ●クレーンワイヤーや駆動箇所付近に直接触れない様、教育を行い周知徹底する。
道路工事	準備工	除草	ハチ刺され	●草刈機にて除草中、ハチに刺される。	●除草前に先行者1名が蜂用殺虫剤を散布し、蜂がいるかを確認する。 ●蜂の巣を発見した場合、一度全ての作業員を退避させ、駆除を行う。 ●蜂の種類、習性、予防方法、刺された場合の処置方法を周知する。
		農業用水切り回し	上水道管破損	●切り回しのためバックホウで掘削作業中、埋設管に接触し、上水道管を損傷する。	●埋設管回り50cmは人力掘削を行う。 ●埋設管明示テープと埋設管がずれている可能性があることを認識、周知する。
		雑工	標識損傷	●構造物掘削残土をバックホウにて仮置き整形中、標識にアームが接触し破損する。	●作業前の打合せを確実にし、重機作業計画書に標識支障物や重機作業半径を必ず書き込む。 ●支障物エリアの立入禁止処置を行う。
		貫入試験	はさまれ・巻き込まれ	●商易貫入試験の実施中にハンマー(5kg)と台座の間に左手中指を挟む。	●ハンマーの落下終了確認後、ハンマーの中心部を持ち、持ち上げ落下させる。 ●ハンマーに【中心部を持つ!】の表示を行い、注意喚起をする。
		ダンプタイヤ交換	飛来・落下	●タイヤのナットを緩める為、ホイールナットレンチに単管を差し込んだ所、単管が外れて顔にぶつかる。	●タイヤを交換する際は整備工場に依頼する。
		目隠し柵転倒	飛来・落下	●(ロープで転倒防止措置を行っていたが)目隠し柵が、突風により本線側に転倒する。	●台風等の強風時は、発注者と協議の上、目隠しシートを一時撤去(巻下り)する等の転倒防止措置を講じる。 ●巡回時の点検を確実に実施する。
	積込・運搬	荷卸し	墜落・転落	●フカカールンを使いトラックに材料積み込み作業中、バランスを崩し荷台上から転落する。	●親綱設備を確実に設置し、安全帯を使用して作業を行う。 ●クレーン操作は、合図者の指示により行う。 ●積荷束は2段積みまでとする。
		ガスボンベの玉掛け移動	はさまれ・巻き込まれ	●吊り荷のバランスが崩れ、ボンベとフックに手指を挟む。	●吊り荷が安定し、フックが停止するまで3m以上離れる。 ●吊り荷のバランスが崩れてもむやみに手を出さない。 ●合図者はオペレーターからよく見える位置で合図し、見えにくい場合は無線機を使用する。
	土工	土砂運搬作業	はさまれ・巻き込まれ	●ダンプのあたりを手で持ち上げてヒンジを嵌めようとした際、嵌った弾みであたりが胸まわり指を挟む。	●外れ止めのストッパーが振動等で上がらないよう番線等で固定する。 ●日常点検時にストッパーが固定されているかチェックする。 ●予定外作業が発生した場合、非常時のルールに従って非常時作業KYを行う。
	土留支保工	解体撤去作業	はさまれ・巻き込まれ	●土留め支保工を解体中、切妻を揺すってボルトが外れた瞬間、玉掛け者が他の資材と切妻材に手を挟まれる。	●重心は目測あるいは計測して、確実にマーキングする。 ●2箇のクランプで重心をはさみ玉掛けする。 ●作業中不具合が出た時は、作業を止めて作業方法・手順等を打ち合わせる。
道路工事	躯体工	型枠組立・解体	はさまれ・巻き込まれ	●型枠を吊り上げた際、子フックが回転してワイヤーロープのよりが戻り、ワイヤーに手指を挟まれる。	●玉掛け作業に生じる自転性について、作業員全員に危険性を周知する。 ●合図者は作業を行わない。吊荷に触らない。 ●介錯ロープ等の使用を徹底する。
		飛来・落下	●内型枠脱型して吊り上げる際、型枠が足場上部の頭つなぎに接触し、桟木吊荷部が破断して落下する。	●吊り荷作業時は人払いを徹底する。 ●吊り荷作業は2点吊りで行う。	
	鉄筋建込	機械転倒	●ラフタークレーンブームを伸ばし作業半径確認中、アウトリガ部の地盤が陥没し、クレーンが転倒する。	●地中レーダー探査にて空洞があった場合、ボーリングにて空洞の確認後、空洞箇所を充填する。 ●アウトリガ設置箇所は鉄板を敷設する。	
	場所打杭	転倒	●主筋の間隔を巻き尺で測定中、りん木材を踏こうとして後足が引っかかり転倒する。	●現場に立入る際は、その前に必ず現場状況、危険のポイントと対策を確認し、周囲の作業員に声掛けした後に立入る。	
	基礎工	鋼管ソイルセメント杭	はさまれ・巻き込まれ	●無線でオペレーターに合図中、掴んでいたゴンドラと降下してくる鋼管回転装置との間に指をはさまれる。	●ゴンドラ上での鋼管建込の作業手順を盛り込み、周知する。 ●施工機OPから見える位置に回転杭を投置し、ゴンドラが回転装置と接触するおそれがある位置にある時は回転杭が点灯し、退避した時は消灯する装置を設置する。 ●無線での合図と回転杭の消灯したことを確認してから、施工機OPは鋼管回転装置の昇降を行う。
		防錆剤塗布	飛来・落下	●鉄筋に防錆処理中、噴射機先端ノズルを覗き込み防錆剤が目に吹きかかる。	●点検時も保護眼鏡の使用徹底を朝礼・KYで全作業員に周知する。 ●噴霧機のノズルは、使用前に確認し、使用後の洗浄を徹底する。
コンクリート工	躯体補修	はさまれ・巻き込まれ	●回転していたハンマードリルに手袋が巻き込まれ、手指を負傷する。	●小型電動工具使用時は、布製の軍手以外を用いる。 ●ハンマードリル使用時はハンドルをしっかり持ち、両手で保持する。	
用排水工	ソケット二次製品の切断	激突され	●コンクリート二次製品をエンジンカッターで切断中、エンジンカッターが跳ね上がり激突する。	●切断に適した場所で、正しい姿勢でゆっくり作業する。 ●切断作業はエンジンカッター操作に熟練したものが行う。	
雑工	既設立入防止撤去作業	飛来・落下	●既設立入防止柵の上部鋼線に設置している横骨線(針金)をソケットに取り外し中、骨線が目当たった。	●保護メガネを使用して作業する。 ●針金が自分の方向にはねる可能性があることを認識して作業する。	
	資材片付け	飛来・落下	●バックホウで法面養生用ネットを吊り上げた際、ネットに絡まっていた土嚢が後頭部に落下する。	●吊荷直下に作業員を入れない。 ●ネットはゆっくりに吊り上げて、絡まっているものがないか確認する。	
鉄道工事	積込・運搬	重機回送	交通事故	●バックホウをダンプに積込み移動時、バックホウアームが橋防護柵に接触した反動でダンプが浮上り、着地した衝撃で腰を骨折する。	●運転手は運転前に積込完了時の荷姿(高さ)を実測、確認する。
		荷下し	墜落・転落	●トラック荷台から降車時、梯子に足をかけてバランスを崩し、トラックのあたりで胸部を強打する。	●単管、番線(スマートロック)等で固定し使用する。 ●作業手順書に昇降設備の設置、固定方法について追記し作業員に徹底する。

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
鉄道工事	基礎工	鋼管ソイルセメント杭建込	はさまれ・巻き込まれ	●ハイウォッシャーで排泥時、ホースを回転ローラー部に巻き込まれ、右手を回転ローラー部にぶつける。	●ロ元管内部にシルト塊が付着している場合、ハイウォッシャーの固定金具を取り付けて使用する。 ●ハイウォッシャーのホースをロ元管内に入れない。
		基礎コンクリート打設	飛来・落下	●地下2階部の基礎コンクリートを打設中、コンクリート車のホースが絡り破裂・落下する。	●ホースやブーム下に立ち入らないよう指導を徹底する。 ●当該工事専用のホースを使用し、他工事に転用しない。 ●ホース全体を損傷防止のため、サニーホースで養生する。
	立坑工	盤下げ掘削(石炭改良)	はさまれ・巻き込まれ	●石灰(トバック)を玉掛け時、吊フックとトバックの帯紐に手袋が挟まり吊り荷が回転して指を巻き込まれる。	●吊り上げの合図は、玉掛け後、手を離してから行う。 ●指差呼称、3・3・3運動を確実に行う。
		柱帯鉄筋組立	飛来・落下	●ラーメン高架橋の柱帯鉄筋を取り付け作業中、各段の上部に仮結束して預けている帯鉄筋の束が、落下する。	●各段の上部への仮置き禁止を徹底する。 ●各段の帯鉄筋は下部へ仮置きし、最下部の鉄筋を結束し、最下段には落下防止資材を設置して確実に足場に固定する。
	躯体工	鉄筋圧接箇所研磨作業	切れ・こすれ	●グラインダーがはじかれ保護手袋を着用していた手指を裂傷する。	●押さえる位置は保護カバー先端ではなく、本体に近いカバー根元部分に添える。 ●手元確認を必ず注意喚起の表示を行う。
		足場解体作業	墜落・転落	●枠組足場の大ばらし中に、無理に吊り上げたため部材の一部が破断・横振れし玉掛け者に当たり転落する。	●枠組足場を大ばらしする場合は、2層5スパン以内とする。 ●綱縋は、確実に安全帯が使用できるように設置する。(綱縋スパンは、5m程度以内とする) ●枠組足場の解体作業中は、必ず安全帯を使用する。 ●枠組足場は、原則として「手すり先行足場」を使用する。
型枠組立・解体		飛来・落下	●水平繫ぎをセットハンマーで打ち込みした際、指を叩く。	●添え手は作業や行動に支障が無い範囲で、適切な距離で保持する。 ●手元及び打込刃部分をよく確認してセットハンマーを使用する。	
	単管パイプの切断	切れ・こすれ	●ヘビースアンダーで単管パイプ切断時、刃先がはねて腕を切創する。	●ヘビースアンダーは両手で取り扱う旨作業手順書に追記し、再度周知徹底する。 ●足場上での切断作業では、落下防止養生を行う。	
土工	伐採工	チェーンソー	切れこすれ	●チェーンソーで伐採作業中、足をチェーンソーで切る。	●チェーンソーの作業をする時は、低い姿勢で作業を行う。 ●斜面で安全長靴を使用する時は、地固めして安定な足場を確保してから作業をする。 ●チェーンソーの作動方向、足の位置、足場の確保について作業手順に追記し周知する。
	準備工	明示ロープ設置	切れ・こすれ	●明示ロープ設置時、カッターナイフでロープを切断しようとした際、カッターナイフが滑り指を切る。	●トラロープの切断は、万能はさみを使用する。 ●鉄ピン・トラロープの安全柵設置時の作業手順書を作成し、作業員全員に周知する。(カッター使用禁止、万能はさみを使用)
	森林除染(双バッチ)	駆除(双バッチ)	ハチ刺され	●近くの巣に気づかず、ハチに刺される。	●フェイスネット・手袋等の着用を徹底する。 ●ハチが飛んでいる箇所では蜂用殺虫剤を常に携帯し単独では作業しない。 ●蜂の巣を発見した場合は作業を中止・退避することを徹底する。
	積込・運搬	玉掛け	墜落・転落	●大型土のうに上がって玉掛作業を行う際に、足を滑らせ転倒する。	●長い玉掛用具(巾着)を使用して、大型土のうに上がらない。
	切土・盛土	盛土転圧	激突はさまれ・巻き込まれ	●タイヤローラー、振動ローラーが法肩から転落し、運転手が下敷きになる。 ●フルドーザー・バックホウに作業員がぶつかる。	●作業範囲内の立入禁止措置を徹底する。 ●作業範囲の路肩の状況等を調査する。 ●法肩部では誘導者の指示で作業する。
		排水管敷設	崩壊・倒壊	●切土法面の法尻部で排水管の敷設作業中、切土法面の表層が崩落して生き埋めになる。	●法定安全勾配で安定計算上、安全な勾配であっても周囲の作業環境を考慮し、できるだけゆるやかな勾配で掘削を行う。 ●勾配を測定し、記録する。 ●法尻部に立ち入り禁止措置を行う。 ●落石・崩壊の危険のある場合は、防護ネットを設置する。
	コンパインドローラー	転倒	●転圧作業中、着ていたトラチッキがレバーに引っかかり運転不能となり土壇場に乗り上げ転倒する。	●重機運転者は短い安全チョッキを着用する。 ●実務経験の聞き取りを行い運転者のランク分けをして作業させる。 ●変更作業時は職長又は上位者に必ず確認をとって作業をおこなう。	
上下水道	仮設工	試掘	水道管破損	●掘削機の残置確認でバックホウにて掘削の際、水道管を破損する。	●掘削前に埋設図面を必ず確認し、管路センター立会のもと試掘を行い、埋設物の確認をする。
	推進工	全ての坑内作業	墜落・転落	●梯子を昇降中に墜落する。	●昇降階段を設置する。 ●昇降階段を設置できない場合は、梯子を設置し、安全帯と垂直親綱(セフティーブロック、ロリップ等)を必ず使用する。 ●手に物を持って昇降しない。
	支保工	配線作業	墜落・転落	●水中ポンプを引揚げようと、電線の切断を行うため支保工上を移動する際、支保工から転落する。	●腹起し上では、安全帯を二丁掛けとし、必ずフックが一方掛かっていることを確認する。 ●段差がある箇所に注意喚起表示を行う。
	土工	掘削	バックホウ転倒	●法肩が崩壊しバックホウが転倒する。	●掘削勾配、法肩からの離れをそれぞれ張り張やカラーコーンで明示、注意喚起看板を設置するなど、安全ルールを作業手順書に記載し、かつ見える化を行う。
調整池埋戻し		作動油の飛散	●バックホウで埋戻し時、油圧ホースが破裂し作動油が飛散する。	●重機搬入時に油圧ホースの状況の点検を徹底する。 ●日常点検において劣化等を確認した場合には早期に取りかえる。	
共同溝工	共同溝	転圧作業	はさまれ・巻き込まれ	●土留支保工の腹起し材ブラケットにローラーのハンドルが当りそうになり、手を出して挟まれる。 ●狭い場所での作業では、必ず周囲の確認を行う。 ●ハンドローラーの作業では、はさまれ災害が多いことを認識し、KY等を通じて危険感受性を高める。 ●ブラケットに危険表示の明示旗を取り付ける。	
地盤改良工事(陸上)	組立共通	ストローク計取付	墜落・転落	●伸縮ストローク計のワイヤー取付中、施工機キャビン上の日よけ用合板に乗り、合板が破損し転落する。	●日よけ用の合板に乗らない。 ●高所作業時には安全帯を使用する。 ●ワイヤー取付位置を適正な位置に下げる。
		クレーン作業	はさまれ・巻き込まれ	●施工機をクレーンで組立時、フックの巻き上げ操作中にフックブロックに手を添えて、消車とワイヤーに挟む。	●玉掛け作業後、作業場所より3m以上離れるルールとする。 ●巻き上げ合図後にも人払いがなされているか確認し、フックが安全な高さになるまで目を離さない。
	組立砂杭系	下部振れ止め取付	飛来・落下	●リーダー下部及び下部振れ止めの取り付け作業中、下部振れ止めが落下し、臀部に激突する。	●専用金具(落下防止金具)を使用する。 ●作業員同士が声を掛けあい、機械の下に体を入れないよう注意する。
		オーガー取付	墜落・転落	●オーガー降り場からライトステップに移る際、バランスを崩し飛び降りかかとを骨折する。	●昇降口付近は整備状況して、歩行の動線が確保されているか確認する。 ●昇降時は、手摺付きライトステップを使用する。
	組立固化系	攪拌軸取付	ループ・トップ破損	●施工機組立中、クレーンブームトップと本体減速機騒音壁が接触し、過巻リミットスイッチ等を破損する。	●クレーンおよび施工機の位置を確認して作業を行う。 ●作業指揮者の確認・指揮の下、合図を合図を行う。
		施工機移動	プラント遮音壁接触	●鉄板上でチャタが滑り回転し、バケットがプラント遮音壁に接触する。	●急激な操作、バック走行を行わない。 ●移動経路付近の構造物を確認し、離隔距離を確保・明示する。
	施工砂杭系	資材搬入・搬出	ゲート破損	●ダンプアップしたままゲートを通過しようとして、ゲートを破損する。	●指定時間以外の車両搬入を行わない。 ●ガードマン不在時は車両の出入を禁止する。 ●荷降し後、走行前に降車して周囲・上方を確認するよう教育を徹底する。
		施工【SAVE】	砕石飛散	●ケーシングパイプ内に砕石がつまり、地表面上で管内の加圧をした際、砕石が飛散する。	●管内の加圧をする際は、ケーシングパイプを地中へ確実に打込んでから行う。 ●加圧する際は、ゴム複製の飛散防止シートを設置する。
		作業油飛散	●ドレンホースのカプラーが外れ、昇降装置付近から作業油が飛散する。	●ホース拳動により引っ張られて抜けないよう、ホースに遊びをもたせる。 ●作業開始前にホースジョイントの状態(カプラー劣化、ゆるみ等)を確認する。	
	施工固化系	施工【SAVE-SP】	飛来・落下	●高圧洗浄機のノズルとホースを持ってかわす際、誤ってトリガーを握り、高圧水が顔に噴射する。	●高圧洗浄機のノズルの置き場をマシン本体傍とロッド架台に設置するとともにホースを常に整理・整頓し、輻射する場合には洗浄機のホースは常に最上に置くことをルール化し、徹底する。 ●高圧洗浄機とホースとの間に開閉コックのバルブを取付け水圧を調節できる構造とし、移動・段取り換え等の作業時には開閉する。 ●器具の各部位を持ち込み時、及び作業開始前に点検を実施し、破損している場合は速やかに取り替える。
待機準備		はさまれ・巻き込まれ	●打ち込み用捨てヘッドに交換する際、手で転がした為、指をはさむ。	●捨てヘッドの吊り作業は1本ずつ玉掛けを行い、転がしての移設作業はしない。	
	台風待機	倒壊(施工機)	●攪拌軸の貫入と施工機後方にトラワイヤーを2本張った状態で待機中、リーダーが倒壊する。	●攪拌軸が貫入不可の場合、攪拌翼軸を解体して、オギーモーターの位置を下げる。 ●事前に元請けへ相談し、展張角度を広げられる用地を確保し、十分な角度で展張する。	

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
地盤改良工事(陸上)	施工 固化系	施工機移動	接触	●施工機を旋回した際、電柱の支線に後部脚台が接触し、電話線が外れる。	●OPと誘導員は合図・連絡・確認を確実に行う。 ●施工機移動時は、必ず管理職員が立ち会い監視する。
			機械転倒	●施工機の移動中、または施工時に施工機が転倒する。	●支持地盤の安定検査を行う際の安全率を統一する(安全率=3.0)。 ●施工前および施工中、フルフローリングより支持地盤の状況を確認する。 ●敷鉄板の敷設は井桁敷とし、上下の敷鉄板の端部を重ね合わせない。
		施工【C1-CMC】	セメントミルク飛散	●オーガーマーター内部配管とフランジの隙間をセメントミルクが伝って、上部より飛散する。	●固定ナットに緩みがないか確認するため、フランジ上部の減速機と回転軸の隙間を確認する。 ●作業開始前にフランジ上部の減速機と回転軸の隙間の目視点検を行い、週1回、隙間の計測を行う。
	施工 締切・遮水	資材(ウレタン)の移動準備	飛来・落下	●クローラクレーン吊り治具下に入り、玉掛けワイヤを吊り治具から外そうとした際、吊り治具が落下する。	●吊り荷の下には入らない。 ●吊り荷の周辺には立ち入り禁止措置(バリケード、標識等)を行う。 ●吊り治具を吊った状態で作業を終了させない。 ●クレーン作業時はフリーモードで操作をしないで、必ず自動モードで操作を行う。 ●現場監視時には、基本ルール(吊り荷下への立入り禁止等)の指示内容の遵守状況を確認する。
					施工 先行削孔
	施工 調査工	調査工ボリク	はさまれ・巻き込まれ	●ボリクロッドの繰戻し時、下側ロッドに手を添えたまま上側ロッドを下ろし、ロッドに手をはさまれる。	●回転物には絶対手を触れないことを徹底する。 ●下側ロッドに手を添える動作は、必要ないことを周知する。 ●オペレータは、ロッドを降下させる前に、巻き足し箇所を目視し安全確認を行う。
					解体 共通
	飛来・落下	●シーブをクレーンで吊り、ドラムへ巻き込み中、クレーンフームが破損してシーブが落下する。	●作業指揮者は役割変更する場合は作業を止め、作業手順書を見直し、関係作業者全員に周知する。 ●作業前に合図者を明確に選任し、関係作業者に周知してから作業を行う。 ●無線機を使用して、合図を確認しながら作業を行う。		
	機材積込	墜落・転落	●トラック上で機材積込み時、物を両手に抱え、荷台の端を移動中に荷台から墜落する。 ●残圧抜きの際、エアホースが外れヘルメットと顔にぶつかる。	●トラック上で物を抱えて、荷台上を移動しない。 ●物を移動する場合には、昇降設備(ライトステップ等)を確認する。 ●「残圧ゼロを確認してから送気バルブを開く」を、作業手順に追加する。 ●カムロックに加え、番線等で抜け止め養生を行い、日々点検する。	
	その他 整備・点検	エアホース取り外し	飛来・落下	●残圧抜きの際、エアホースが外れヘルメットと顔にぶつかる。	●「残圧ゼロを確認してから送気バルブを開く」を、作業手順に追加する。 ●カムロックに加え、番線等で抜け止め養生を行い、日々点検する。
			トップベアリングの修理	はさまれ・巻き込まれ	●トップベアリングを修理する際、ワイヤーをつかんだ手を挟まれる。
		施工機点検中	飛来・落下	●点検時、下部振れ止めの下に入り、振れ止め吊りワイヤーが切断・落下して、下敷きになる。	●オペレータはリターンリールを使用し、エンジン停止を徹底する。また運転席から離れた場合は、レバーのコントロールを確認する。 ●機械の下に立ち入る場合は、落下防止措置を確実に実施する。 ●振れ止めの「落下防止ロック」の確認、「ワイヤーによる落下防止」措置を行う。
			攪拌翼交換	飛来・落下	●攪拌翼の一段目に登り、ピンを抜く際、振れ止め天板裏から残土が落下してあたり、攪拌翼から転落する。
	プラウト洗浄	はさまれ・巻き込まれ	●アジテーター内部を洗浄中、排水用出窓の扉から足を滑らせ、攪拌翼と出窓の間に足を挟む。	●アジテーター清掃は、必ず電源を切ってから行う。 ●アジテーター清掃は、必ずインターロックをOFFにし、鍵を抜いてから行う。 ●作業用足場を使用して清掃を行う。	
	製作 工事	FD係留	FD乗降時	●FDから下船する際、取付けた梯子に乗り移ったとき、梯子が滑り落ち、岸壁についた手を骨折する。	●乗降する際は、梯子を使用せず可搬式作業台を使用する。可搬式作業台の設置・固定は陸上作業員を配置して行う。 ●補助タラップを外したときの乗降ルールについて実地訓練を行う。
鉄筋吊り込み			転倒	●昇降足場から鋼板内へ降りる際にバランスを崩し転倒しそうになり、肩をねじる。	●階段を単管およびクランプで揺れないように固定する。 ●危険箇所には標示物等を設置し、「見える化」を行う。
灌漑 工事	中詰工	中詰土天端仕上げ	激突され	●敷き鉄板の片側を吊り上げる際、敷き鉄板が横滑りして、作業員に激突する。	●敷き鉄板移動時は、作業半径内から作業員を待避させる。 ●作業員の待避確認は、オペレータと相対作業員の間で合図【グー・パー等】を定めて行う。
				コンクリートブロック工事	消波ブロック製作
消波ブロック据付・撤去	玉掛け治具交換	はさまれ・巻き込まれ	●消波ブロックの玉掛け治具交換時、鉄棒がすべり治具とデッキに指を挟む。		●作業時には台木を準備する。 ●鉄棒を使わないブロック構造(吊り上げピースを取付)にする。 ●詳細作業手順書を作成し、周知する。
異形ブロック(製作・転置・運搬)	型枠脱型及び転置	はさまれ・巻き込まれ	●7ブロックと7ブロックの間に手・指を挟まれる。 ●型枠上または足場上から墜落転落する。 ●側型枠を人力で無理に脱型し、側型枠が激突する。		●ワイヤーを直接持たない玉掛け方法を実施する。 ●型枠上部の繋ぎ金具を外す際は、適切な足場を使用する。 ●型枠脱型作業手順に従って作業する。
防波堤 工事	海上積込・運搬・据付	起重機船の係留	激突され	●係留作業中、ロープに無理な力が加わり切断又は解けて、乗組員がロープに跳ねられる。	●着火船の曳船用ガイドに係船ロープが引っ掛からないような形状にする。 ●着火船の船首甲板部に立入禁止区域を明示する。 ●係船ロープ、補助ロープの始業前点検を確実に実施する。 ●ペンドル(タイヤ)に係船ロープが絡まることのあるので、係船ロープの動きを監視する。
				防波堤下部工事	鋼管矢板切断
護岸 工事	ケーソン製作	足場解体	墜落・転落	●ケーソンから取り外した鋼製足場を分解中、部材にたつき足場から落下する。	●簡単な作業でも油断せず、危険予知を行う。 ●足元にある部材は踏く恐れがあるため、先行して片付けを行う。 ●職長及び職員は、作業終了後は必ず作業中のケガ、異常等の確認をする。
				積込・運搬	転倒
	水中コンクリート打設	滑車の交換	はさまれ・巻き込まれ		●タイヤジョベルで後進時、電灯に激突し電灯が倒れる。
				飛来・落下	●滑車を交換時、ワイヤーがずれ落ちてワイヤーと滑車に指を挟む。
コンクリート打設	水中コンクリート打設	飛来・落下	●先端ホースをクレーンで吊って打設中、ホースが破裂して生コンが飛散する。	●ポンプ車にて生コン打設の際は、保護メガネを着用する。 ●先端ホースは2点吊とし、ホースにつぶれや折れがないことを点検した後打設する。 ●先端ホース(5時)の外側に8時のサニーホースで養生し、破裂しても生コンが飛散しないようにする。 ●ポンプ車の日常点検に加え、ホース・配管も点検を行い、不備のある物は交換する。	
				コンクリート打設足場	激突され

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
護岸工事	施工管理	施工管理	転落	●安全監視船が風におおられ、護岸に接触した弾みでバランスを崩し海中転落する。	●救命胴衣を着用する。 ●電池式の簡易無線機を使用し、日々受け渡しは行わない。 ●安全教育を実施し、現場ルールや安全意識の高揚を徹底する。
	船舶係留	引船係留	はさまれ・巻き込まれ	●引き船を起重機船に係留時、船体が動揺して係留ロープとビットに手を挟む。	●係留ロープを掛ける際、補助ロープの使用を徹底する。
	杭打設	杭打機の振れ止めワイヤの通し替え	はさまれ・巻き込まれ	●振れ止めワイヤの通し替え作業中、中間ブームとワイヤの間に指を挟む。	●指揮命令系統の周知および独断作業禁止の徹底。 ●交換するワイヤにテープを巻く等、識別できるようにする。 ●合図があるまでオペレーターは操作しない。
	遡水工	遡水シート沈設	激突され	●潜水士が水中部玉フイを撤去する際、顔面にぶつかる。	●水中部玉フイ撤去作業は、体勢が保持できるフーカー潜水士にて行う。 ●撤去時は、玉フイ浮上位置から少し離れて玉フイを真横から見るような体勢をとる。
浚渫工事	クラブ浚渫	吊りワイヤの入替	激突され	●バケットワイヤのエンド部をコッターピンに差し込む時、ワイヤが外れて激突する。	●ワイヤが跳ね返っても当たらない位置に体を置いて行う。 ●ワイヤの折り返し長さを多く取り、反発が少ない状態で行う。 ●作業前のKYは、現物を確認し作業内容にあったKYを行う。
		位置決め	はさまれ・巻き込まれ	●揚船船で起しワイヤをウィンチで巻く際、起しワイヤを掴んで、シーブとワイヤに指を挟む。	●直接ワイヤを手でつかまずフッカーを使用し、ワイヤを空気圧送船側に引き寄せ、その後回収する。 ●作業の開始は作業指揮者の合図により行う。
地盤改良工事(海上)	海上工事(圧密・締固)	船内歩行	転倒	●作業場へ移動時、船内の通路段差に躓き、階段角に額を打つ。	●階段昇降時は、足元をしっかりと目視して慎重に歩行する。 ●注意看板をより視覚的なものにする。 ●危険箇所はクッション材等で養生する。
		着火船の移動	はさまれ・巻き込まれ	●着火船で作業台船のアンカーワイヤをくぐり抜けようとした時、アンカーワイヤと着火船に挟まれる。	●アンカーワイヤに「ワイヤ注意」「運航ルート」の標識を設置し、注意喚起する。 ●着火船の運航ルートを明示する。 ●アンカーワイヤの下を通過する時は、最低速度で運航する。 ●着火船の機関部ハッチが開けたままにならないよう、ハッチをピンジ式から取り外しに改造する。
	海上工事(固化)	汚濁防止膜設置	激突され	●汚濁防止膜の介錯時、アンカーボルトに引っかかっていた操船ワイヤが外れ足に当たる。	●操船ワイヤに近づく際は、引っかかりのないことを確認する。 ●操船ワイヤ付近での作業時、事前の状況確認を行い、監視員を配置する。
		攪拌翼の肉盛り溶接補強	飛来・落下	●攪拌翼の肉盛り溶接補強中、保護メガネをかけておらず、スパッタが飛来し目を火傷する。	●適正保護具の使用徹底。 ●作業しやすい場所を確保する。
共通工	車両系建設機械の運転	施工機下し作業	はさまれ・巻き込まれ	●トレーラーから施工機を下ろし運転中、前傾になっていた為ドアが開まり、指を挟む。	●ドアのヒンジ部に手を置かない。 ●ドアの固定ロックをこまめに確認する。 ●作業開始前に危険ポイントを確認し、指導する。
		ダンプ運搬	はさまれ・巻き込まれ	●落下したアオリを取り付ける際、バランスを崩して荷台とアオリに手をはさまれる。	●業務内容、作業員の技量を把握した人員配置を行う。 ●アオリ下部のロックピンを取付ける。
		バックホウ作業	激突され	●鋼矢板をバックホウで移動中、誘導員の足に激突する。	●現場状況を確認し、危険箇所への立入禁止を徹底する。 ●用途外使用禁止を再度指導・徹底し、各作業計画等の見直し、確認を徹底する。
			埋設物損傷	●埋設物が想定箇所より浅い位置にあり、掘削中に埋設ケーブルを損傷させる。	●埋設物の位置・高さを安易に判断せず、試掘を行う。 ●埋設物付近の掘削は手掘りで行う。
			架空線切断	●運転席上方を十分確認しないまま運転し、架空線を切断する。また、切断した架空線で感電する。	●架空線下での作業は見張人を付け監視する。 ●架空線付近には注意喚起の表示を設置する。
		機械転倒	●クレーン仕様バックホウで敷鉄板を吊り上げ仮置きする際、バランスを崩し機械が転倒する。	●吊作業は重機を平坦な箇所に設置して行う。 ●斜路で作業する際は、ラフタークレーン等を使用する。 ●機械の作業能力を確認・明示し、周知する。	
	クレーン作業	送電線短絡	●送電線下で、クレーンで荷を吊って移動しようとした時、ブームが送電線に接近して、短絡する。	●作業前に、電力会社の立会いを行い、送電線高さおよび離隔高さを確認する。 ●送電線下での作業は、監視人を置き、作業を監視させる。 ●クレーンに操縦指示ロープ等を設置して、安全措置をする。 ●送電線下に、危険標識を設置する。	
	人力運搬	アセチレンボンベの運搬	はさまれ・巻き込まれ	●アセチレンボンベを運搬し、ボンベを立掛けようとして、奥にあるボンベとの間に指を挟まれる。	●ボンベを立掛ける時は、指の位置を確認する。 ●一人で無理がある時は、二人で行う。 ●ボンベとボンベの間に間仕切りを設ける。
	ハンドブレイカ	コンクリートのはつり	はさまれ・巻き込まれ	●ハンドブレイカのピックの先が鉄筋に噛んで、ハンドブレイカが回転して手を挟まれる。	●ハンドブレイカは、逆手に持たない事を徹底する。 ●指は、ハンドルの外側に出さないを徹底する。 ●ブレイカ作業は、危険な作業である事を周知徹底する。
	丸ノコ	型枠切断	切れこすれ	●電動丸ノコで型枠パネルを切断中、丸ノコが跳ね返り、体に接触して切れる。	●切断作業は、安定した場所に置いて安定した姿勢で行う。 ●利き手以外での使用は、危険を伴うので禁止とする。
分電盤	分電盤の修理	感電	●発電機のブレーカーを落とさずに分電盤の点検・修理作業し、活線に接触し感電する。	●故障が発生した場合は、電源を落とし作業を中止した後に行う。 ●点検・修理作業時には、電気検知機にて検測する。 ●分電盤には、行き先表示および注意喚起の表示をする。	
高圧洗浄機	点検作業	飛来・落下	●高圧洗浄機の整備点検中、突然ノズルから水が噴射し目にあたる。	●ノズル先端方向に人がいないことを確認してからレバーを握る。 ●整備・点検中においても保護メガネを着用する。 ●高圧洗浄機使用時の作業手順を再度、周知・徹底する。	
高温環境下での作業	全ての作業	熱中症	●高温環境下での作業中、熱中症にかかる。(資材片付、蛇かご製作、型枠解体、鉄筋組立、グラウト組立、施工機組立、ソケット打設、支保工組立、足場解体、誘導など)	●水分・塩分の適切な摂取と涼しく適度な休憩ができるような準備・設備を整える。 ●入場時に、既往症・異常所見の有無を健康診断結果等により確認し、有の場合は作業・配置等について配慮する。 ●体調に異常を感じたら、速やかに報告するよう指導する。 ●各作業員に熱中症対策を含め、自ら体調管理に努めることを徹底指導する。	
通勤	自動車の運転	交通事故	●左折待ちの車列を離れようとした際、後方からきた車両と衝突する。 ●交差点で、左側から直進してきたトラックと衝突する。 ●路面の凍結でスリップして、路肩から河川敷に転落する。 ●交差点侵入時、右方向から来た乗用車と衝突する。 ●自動車を運転中、対向の右折車と衝突する。	●バックミラー・目視等で前後・左右の確認を行う。 ●通行車両が少ない道でも通勤時には車両が増加することを意識する。 ●徐行するなど、路面状況に応じた安全運転を行う。 ●気象状況、時間帯等を考慮した無理のない運行計画をたてる。 ●前方に注意して運転する。 ●スピードを出しすぎない。 ●交通ルールの厳守。	

管理文書

2020年度最重点実施事項として展開しています

指差呼称 これを防ぐぞ ヒューマンエラー

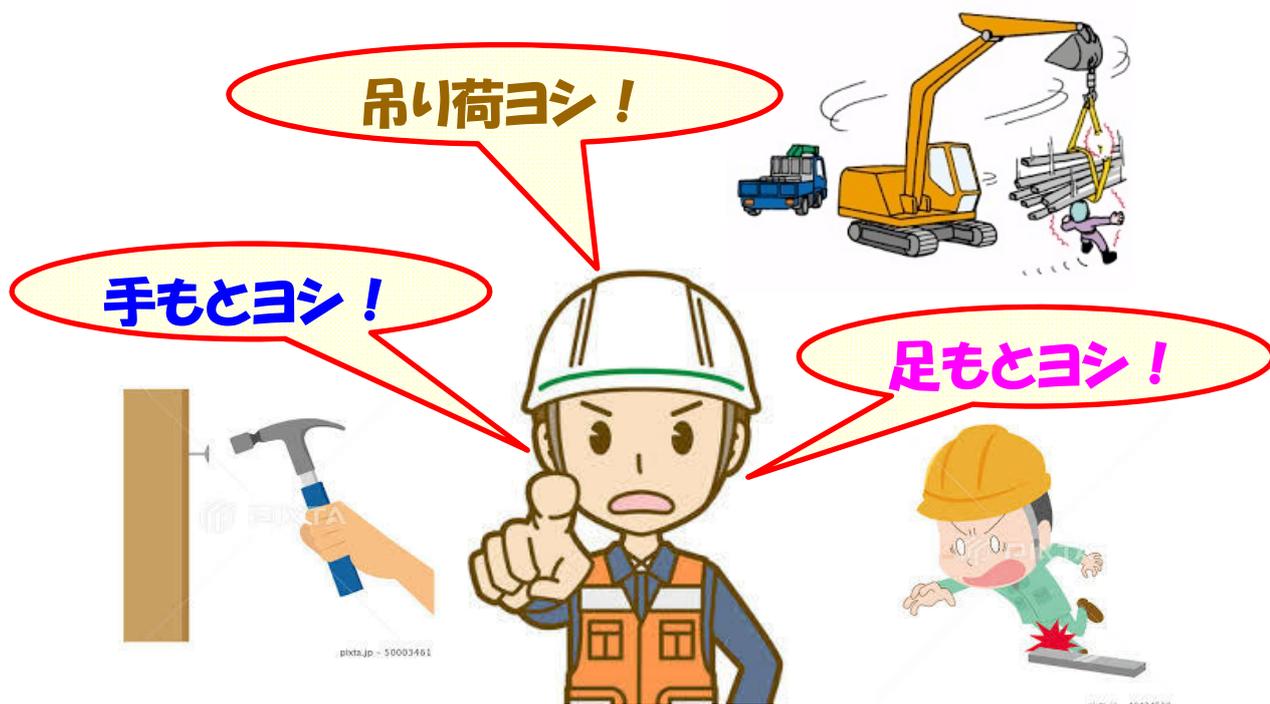
「手もとヨシ！」

「足もとヨシ！」

「吊り荷ヨシ！」

日常の作業行動のなかで、指差呼称による安全確認を行うことが、ヒューマンエラーを防止するのに最も有効な方法です。昨年度、当社で発生した災害の8割は、

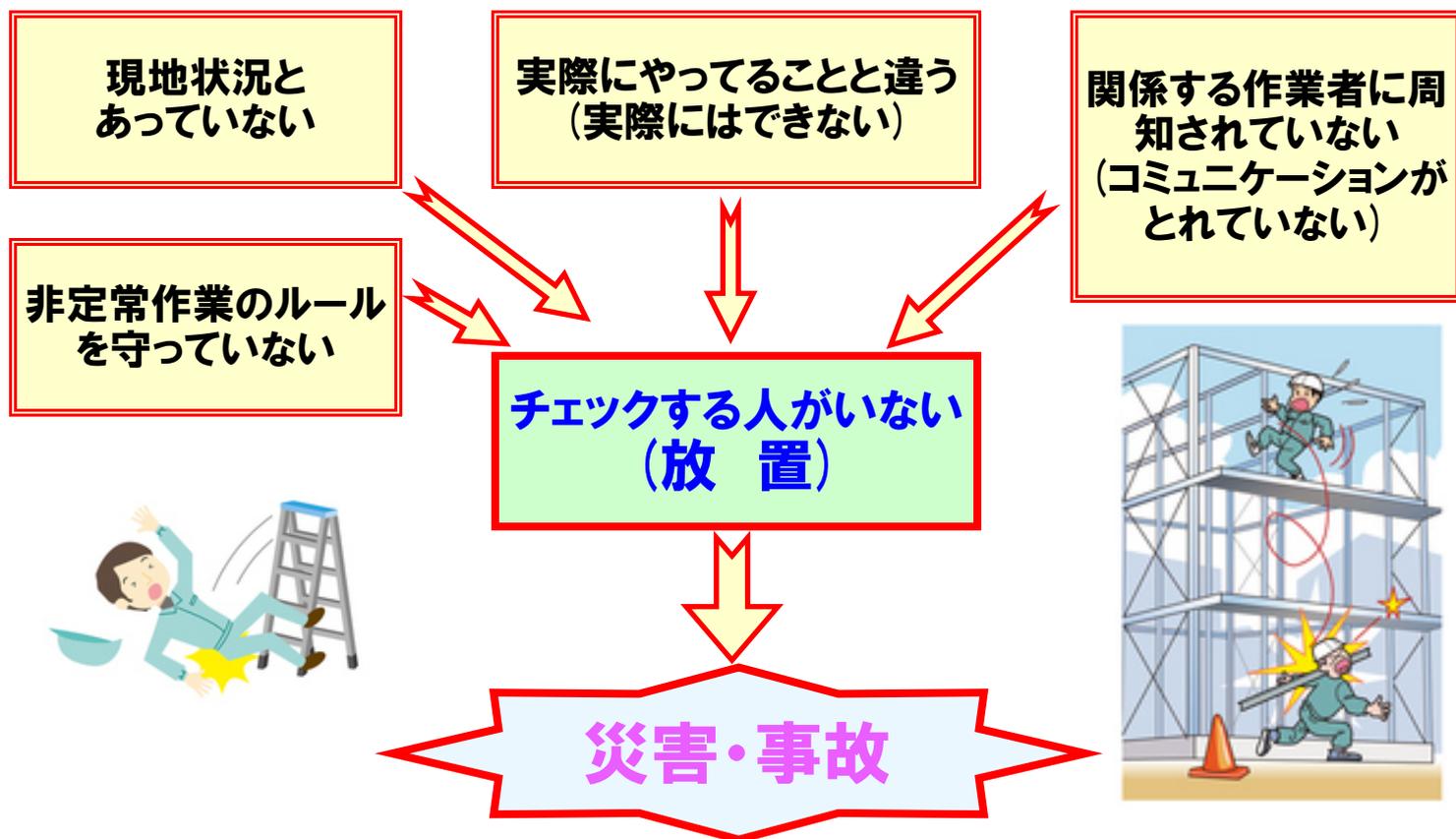
「手もとの確認」・「足もとの確認」・「吊り荷の確認」  
この3つの確認を怠らなければ防げた災害です。



実行しましょう！

- ① 実際に作業を行う一人ひとりが、作業単位毎のKY活動・現地一人KYで、いつ、何を、指差呼称で確認するのか具体的に自分自身で決定する。⇒ 『きょう、私は～～するときに、～～を指差呼称で確認するぞ！』
- ② 管理監督者(店社・作業所)が率先垂範で雰囲気づくり、管理監督者の姿勢・行動・熱意が作業員の意識に反映される。

# 作業手順・作業計画



## 《作業開始前》

作業手順・作業計画を策定し、周知する

使用機械・器具、有資格者、役割分担、保護具類、作業方法等は適切か？ 関係法令を遵守しているか？  
関係する作業者全員が理解しているか？

## 《作業開始後》

現場状況・作業状況を把握し、見直し・改善をする。

手順書・計画書どおりに作業してる？ なぜ、やらない？  
やりにくい？ 手間がかかりすぎないか？ 危ない？

作業開始前に・・・

ヒト・モノ・キカイを段取りするように、作業手順・作業計画を策定し周知しましょう！

作業開始後に・・・

品質・工程・原価をチェックするように、作業手順・作業計画をチェックし、必要な見直し・改善をしましょう！

# 3ない管理 「黙認しない」「妥協しない」「放置しない」

## 「3ない管理」に徹した現場巡視をしましょう！

### ◎ 不安全行動を『黙認しない』

・ちょっとした不安全行動・ルール違反でも、

「黙認しない」でその場で是正

~~足場板を固定していないけど…、もうすぐ  
終わりそうだから、「まあ、いいか」~~

⇒管理監督者が不安全行動・ルール違反を

黙認すれば認めたことになる

### ◎ 言い訳に『妥協しない』

・やりづらい、といった作業員の言い訳に

「妥協しない」で安全作業に改善

~~安全カバーを外しているけど…、  
やりづらいと言ってるし、「まあ、いいか」~~

⇒言い訳に妥協するのは、指導力のない証拠

### ◎ 不安全状態を『放置しない』

・不安全な状態に気づいたら、「放置しない」ですぐ改善

・すぐできない場合は、今できるとりあえずの安全対策を実施

~~手すりが外れたままだけど…、  
今、誰もいないし、「まあ、いいか」~~

⇒不安全状態、気づいたときに改善するとき

「まあ、いいか」は「全然よくない！」  
「3ない管理」で安全最優先

# 日々の安全活動による危険感受性の向上

## 危険感受性の低下

- ・災害に直面する体験が稀（労働災害の減少）
- ・生活環境の変化（安全・安心な日常生活）

「危ないなあ」「なんとなく変だなあ」「どうも気になる」

現場では、作業者がとっさに危険を感じ、作業者自身がその危険を回避する行動をとらなければならない場面が多い

労働災害防止に、危険感受性の向上が必要！

## ◎ 日々の安全活動の活性化で危険感受性を向上させよう

### 《1. KY活動の活性化》

- ・KY活動でその日の作業の危険の洗い出し
- ・他の作業員が予知した危険を自分のものに
- ・危険感受性の高くない作業員に発言の機会を



### 《2. 指差呼称》

- ・危険箇所、危険作業を教え、指差呼称で確認させる
- ・指差呼称で確認することにより、危険を認識

### 《3. 声かけ》

- ・「ちょっと待て！」「離れろ！」「触るな！」等、  
声かけにより危険を気づかせる

### 《4. 危険の見える化》

- ・危険箇所の明示⇒昇降口に、「足もとヨシ！」
- ・かもしれカードで注意喚起⇒回転部に、「巻き込まれるかも！」
- ・現場ルールの明示⇒「歯止は良いか？」

### 《5. 安全教育・訓練》

- ・KYシートを使って、KYT（危険予知訓練）
- ・「かもしれカード」の活用  
⇒「落ちるかも」「挟まれるかも」「転ぶかも」「倒れるかも」等
- ・映像教材の活用
- ・危険体感教育

